

# Atiśaに帰される *Śatasāhasrikāprajñāpāramitā*について

望 月 海 慧

## はじめに

まず最初に、再び彼の名称について述べなければならない。筆者は自らの論文において、チベット大蔵経のテンギュルに収録されている *Bodhipathapradīpa* などのテキストの著者を Atiśa または Atiśa とすることを改め、Dīpaṃkaraśrījñāna とすることを明言した<sup>(1)</sup>。その理由は、これらのテキストの著者としては、Dīpaṃkaraśrījñāna にあたるチベット名 dPal mar me mdzad ye shes<sup>(2)</sup> があげられているが、Atiśa にあたる名称はあげられていないからである。しかし、ここで再び Atiśa と記す理由は、本論文で扱うテキストの奥書きには、その著者として「a ti sha」という名称があげられており、Dīpaṃkaraśrījñāna にあたるチベット名はあげられていないからである。したがって、Dīpaṃkaraśrījñāna という表記を用いたことと全く同じ理由で、ここでは本テキストの著者を「Atiśa」と呼ぶことにする。しかしながら、このことは、彼を *Bodhipathapradīpa* の著者である Dīpaṃkaraśrījñāna と別人であるというのではない。その一方で、同一人物であると積極的に論証する根拠もない。現時点で言えることは、Atiśa に帰されるテキストが手元に存在するという点だけである。そのような理由で、本論文の表題を「Atiśa に帰される」とする<sup>(3)</sup>。

## Dīpaṃkaraśrījñāna のテキストに見られる般若経

本論に入る前に、Dīpaṃkaraśrījñāna に帰されるテキストにおいて言及される般若経について見てみる。彼の多くの著書は、偶頗で著されたスモール・テキストであり、直接に経証として同経からの引用が見られるテキストは限られており、以下のテキストのみである。

最初に彼の主著である *Bodhipathapradīpa* に対して自らが著したとされている *Bodhimārgadīpapañjikā* における引用を見てみる。同論における般若経からの引用は三箇所に見られる。最初のもは根本偈に説かれる「供養」を説明する箇所において「般若経より」とし、

私を物質として見たり、私を声で認識するそれらの人は誤って見ており、この人は私を見ていない。諸仏は法身であり、導く人たちは法性と見られる。法性は見られるべきもの

ではないので、それを確認することはできない。

と述べられている<sup>60</sup>。類似する文章を *Vajracchedikāprajñāpāramitāsūtra* に見ることができる<sup>61</sup>。二番目は *Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* からのものであり、

禪定に対する思いを僅かでも引き入れる比丘は、衣服に対する思いが少なく、食事に対する思いが少なく、皮膚の色は油を塗ったようである。

というものである<sup>62</sup>。最後のものは *Suvikrāntavikrāmipariprcchāprajñāpāramitāsūtra* からのものである。そこでは「一切法不生」に対する経証の一つとして、

如来は知恵によりいかなるものも見られない。それは何故かというのならば、次のように対象がないからである。

と述べられている<sup>63</sup>。その他に引用文ではないが、般若経<sup>64</sup>や「常啼品<sup>65</sup>」というタイトルのみの指摘が複数箇所に見られる。

前掲テキストの次に大著となる *Ratnakaraṇḍoghāṭa* には、般若経からの引用が六箇所に見られる。最初のもは *Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* からのものであり、その他のものは、いずれもが *Aṣṭasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* からの引用である。まず最初の *Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* からのものは菩提心の性質に関するコンテキストにおいて引用され、

私は、何も得ることがなくても菩提の心髄を明らかに悟っている。

というものである<sup>66</sup>。これとほぼ同じ箇所に *Aṣṭasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* から、

シャーリプトラよ、何であれ心でないものは、心が存在しないものである。何れあれ心が存在しないものは、心の自性により輝いている。

と引用されている<sup>67</sup>。次のものは、「菩提心の把握」のうち、自らを害する衆生のもとを去らないことに関して、

菩薩は、他の者が過ちを犯しても、彼と争うことをせず、彼を傷つけたり心を乱すべきではない。もし殺生をしても、彼らを憎むべきではない。どんな衆生であっても憎むべきではない。菩薩たちはしっかりとした想をなすべきである<sup>68</sup>。

と述べたものと、

菩薩は、一切衆生に対して、父母と男子と女子の想をなす。自らが楽を望むように、他の衆生にも楽を与えるべきである。すべての衆生を苦から解放すべきである。いかなる衆生も捨てない。彼らは自分の身体の何百という部分を切り裂いても、彼らを傷つける心を起こさず、慈悲と大悲を起こす<sup>69</sup>。

と述べたものが連続して引用されている<sup>70</sup>。次のものは、「他者が起こした菩提心に働く功德とそれを喜ぶ功德」に関するコンテキストにおいて、

一切世間の量を知ることはできるが、他者が起こしたものに働く功德に関しては、十方

の仏と菩薩たちは知ろうとしない。他者が菩提心を起こしたことを喜ぶ功德が集まったものの量を知ることはできない。

と引用されている<sup>(45)</sup>。次のものは、「他者が起こした菩提心を中断させる過失」に関するコンテキストにおいて、

三千 [大千世界] のガンガーの川の砂ほどたくさんの阿羅漢を殺したり、五無間をなすことによる罪悪である<sup>(46)</sup>。

と引用されてる<sup>(47)</sup>。次のものは、「菩提心を願う功德」に関して、

所縁をもつ人は、ガンガーの川の砂ほどの多くの劫において善根をなした人なので、他のある人が一日や、半日や、指をはじく瞬間でも菩提心を起こせば、福德は大きくなる。

と引用されている<sup>(48)</sup>。また同論には、*Prajñāpāramitāratnaguṇasamcayagāthā* からの引用も見る事ができる<sup>(49)</sup>。

Dīpaṃkaraśrijñāna が編集をした大乘經典のアンソロジーである *Mahāsūtrasamuccaya* には、般若經の引用は七箇所に見られる<sup>(50)</sup>。いずれの引用も「般若經 (*Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i mdo*)」というタイトルで引用され、特定の般若經を指してはいない。確認できたものに関しては *Aṣṭasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* にその典拠を見ることができる。また、*Prajñāpāramitāratnaguṇasamcayagāthā* からの引用も三箇所に見られる<sup>(51)</sup>。これらの引用数を、同論におけるその他の經典の引用数と比べると、それほど多いものではない。

般若經に対する直接の注釈書としては、*Prajñāpāramitāhṛdayasūtra* に対する注釈書である *Prajñāhṛdayavyākhyā* が存在する<sup>(52)</sup>。彼に帰されるテキストの中でも、注釈書として經典の語句を直接に解説しているものは、本論だけである。

般若經のエッセンスをまとめた Maitreya に帰される *Abhisamayālaṃkāraśāstra* に対する注釈書の *Prajñāpāramitāpiṇḍārthapradīpa* も存在する<sup>(53)</sup>。本論は根本テキストの語句を詳細に解説するというスタイルではなく、その内容をまとめたものを偈頌で著したものである。

また彼は、チベットでは多くの文献をチベット語に翻訳した者としても知られているが、*Aṣṭasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra*<sup>(54)</sup> とその Haribhadra による注釈書である *Abhisamayālaṃkāraśāstra*<sup>(55)</sup> のチベット語訳を校訂している<sup>(56)</sup>。

以上のことから、Dīpaṃkaraśrijñāna (or Atiśa) にとって、いわゆる般若經は比較的重要なテキストの一つであったと言えることができる。その中でも *Aṣṭasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* に最も重点をおいていたように思われる。また *Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* を、名称を特定して二度引用している点も、注目に値する。

## *Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* について

*Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra*<sup>(27)</sup> に対する注釈書に関しては、チベット大蔵経のテンギュルに次の四書が収められている。すなわち、

1. Smṛtijñānakīrti, \* *Prajñāpāramitāmātrkā-śatasāhasrikābr̥cchāsanapañcaviṃśatisāhasrikāmadhyasāsanāṣṭādaśasāhasrikālaghuśāsanāṣṭasamānārthasāsana* (Yum shes rab kyi pha rol tu phyin pa rgyas par bstan pa 'bum dang 'bring du bstan pa nyi khri lnga stong dang bsdus te bstan pa khri brgyad stong pa rnams mthun par don brgyad kyis bstan pa), D. No. 3789, Kha 182b1-243a7, P. No. 5187, Da 207a4-275a8.
2. Dharmasīri, \* *Śatasāhasrikāvaraṇa* (sTong phrag brgya pa'i rnam par bshad pa<sup>(28)</sup>). D. No. 3802, Ta 204a3-270a7, P. No. 5203, Da 256a7-330b8.
3. Daṃṣṭrasena, \* *Śatasāhasrikāprajñāpāramitābr̥hattikā* (Shes rab kyi pha rol tu phyin pa 'bum pa'i rgya cher 'grel pa). D. No. 3807, Na 1-331a7, Pa 1-252a7, P. No. 5205, Na 1-392a8, Pa 1-308a8.
4. Daṃṣṭrasena, \* *Śatasāhasrikāpañcaviṃśatisāhasrikāmadhyasāsanāṣṭādaśasāhasrikāprajñāpāramitābr̥hattikā* (Shes rab kyi pha rol tu phyin pa 'bum pa dang nyi khri lnga stong pa dang khri brgyad stong pa'i rgya cher bshad pa), D. No. 3808, Pha 1-292b3, P. No. 5206, Pha 1-333a6.

このうち、1と4は、*Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* だけに対する注釈書ではなく、*Pañcaviṃśatisāhasrikā* と *Aṣṭādaśasāhasrikā* に対する注釈も含んでいる。したがって純粋な注釈書は、2と3のみとなる。

チベットにおいては、次の二つのテキストが知られている：

5. Atiśa, *Śatasāhasrikāprajñāpāramitā* (Shes rab kyi pha rol tu phyin pa stong phrag brgya pa'i don ma nor bar bsdus pa).
6. Klong rdol bla ma ngag dbang blo bzang, 'Bum gyi 'grel rkang brgya rtsa brgyad ngos 'dzin. *The Collected Works of Klong dol Lama*, New Delhi 1973, Da 1-16a<sup>(29)</sup>.

### *Śatasāhasrikāprajñāpāramitā* のテキストについて

*Śatasāhasrikāprajñāpāramitā* のサンスクリット原点は現事時点で確認できておらず<sup>(30)</sup>、チベット語訳が知られている。今回利用することができたのは、以下の版である<sup>(31)</sup>：

- SB 'Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa 'bum bsdus pa'i snying po zhes bya ba bzhugs so. Jo bo rje dpal ldan a ti shas gsungs so. n.p., 1972.

Xylographic print from blocks preserved at Tragang tok (Brag sgang tog) in Solukhumbu, Nepal. N-Tib 72-903954.<sup>(32)</sup>

SD *'Bum gyi bsdus don snying po dang bcas pa bzhugs so*. Delhi 1967. R 1972-881<sup>(33)</sup>.

SK *sTong phrag brgya pa'i don ma nor bar bsdus pa or 'Bum bsdus*. The essential meaning of the *Satasāhasrikāprajñāpāramitā*. An instruction of Atiśa rendered into verse by the Nepalese A-su printed from the blocks preserved in the bKra-shi zhugs gling (Śa-śul) Temple. Kelang 1968. I-Tib 73-904094<sup>(34)</sup>.

ST *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa 'bum bsdus pa dang / gdon chen bco lnga zhi byed / tskra bcu gsum gzungs bcas bzhugs so*. Tibetan Cultural Printing Press. Dharamsala 1990<sup>(35)</sup>.

このうち、SDとSKは比較的近い伝承の版に基づいており、SBはそれらより異なるテキストである。SBは本テキストのみしか収められていないのに対し、SDとSKはそれぞれ別なテキストも添えられている。

SDは筆記された文字のように見え、他の版には付されている編集者による後書きの部分を欠いている。そのため、読誦するために後年になって編集されたテキストのように思える。

洋装本として出版されているSTは、他の三つのテキストとは著しく異なっている。本書を作成するための元になった版は、他の三つの版とは全く異なる伝承をもっているように思える。したがって、この小さなテキストに三つ、あるいは少なくとも二つの異なる伝承があったことがわかる。

### *Satasāhasrikāprajñāpāramitā*のタイトルについて

チベット語訳テキストの冒頭部分では、そのサンスクリットのタイトルを *Satasāhasrikāprajñāpāramitā* と経典のタイトルをそのまま引いてきている。それに対し、そのチベット語訳は、*Shes rab kyi rol tu phyin pa stong phrag brgya pa'i don ma nor bar bsdus pa* と固有のタイトルを付している。後半部分は、「意味を誤りなくまとめた」という意味になる。サンスクリットを想定するならば、*ma nor ba* に関しては、*abhrānta, samdarśana*<sup>(36)</sup>を、*don bsdus* に関しては *piṇḍārtha*<sup>(37)</sup>を想定することができるであろう。他方、SB版の最後には<sup>(38)</sup>、「大十万頌般若経の心髄を集めた小十万 (*'Bum chen mo shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i snying po bsdus pa'i 'bum chung*)」という、「心髄撰集 (*Garbhasaṃgraha*)<sup>(39)</sup>」や、「小十万」という名称も見られる。

では、同論に固有のタイトルが存在していたのであろうか。以下に考察するように、本論は、この膨大な長さの経典を読むことが困難な者が、このコンパクトにまとめたテキストを読むこ

とにより、その読誦の功德を得ることを目的として編纂されたテキストである。チベット語訳に付されたテキストの略称が一致していないことや、このテキストが「小十万」と呼ばれていたことから、本テキストの名称は經典と同じ *Śatasāhasrikāprajñāpāramitā* であり、同経の縮小版と認識されていたのであろう。チベット語訳に付されたタイトルの後半部分は、チベットに伝わった後に付されたものと思われる。

### *Śatasāhasrikāprajñāpāramitā* の構成

本テキストでは、*Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* の導入部をそのまま引いてきた後に、同経に説かれる仏教の教義が列挙されている。

まず最初に、五蘊・十二処・六識・六触・六受・六界・十二縁起・十二作者・二十七天のそれぞれの項目が列挙されている。

続いて、その目的があげられる。すなわち、色から一切智<sup>(40)</sup>までの浄化と、色から一切智までの円満とであり、前項により浄化され、円満になると表現されている。

続いて、その具体的な方法が列挙されている。すなわち、六波羅蜜・十八空性・三十七菩提分<sup>(41)</sup>・四聖諦・四禪・四無量・四無色定・八解脱・九次第定・三解脱門・[六]神通・三昧・陀羅尼門・十八不共法<sup>(42)</sup>・四沙門果・三智・智の優先性・智の無障無礙性が説かれている。

最後に、「菩薩たちが世尊が説かれたものを賞賛した」というまめとの句が述べられ、テキストの本編は終了する。

これらの教義を、經典自身に求めると、同経の第二章「初分学観品」の最初の部分をはじめ<sup>(43)</sup>、多くの箇所に見られる。従って、特定の箇所説かれている教義を引いてきたというのではなく、經典に繰り返し説かれている教義を法数の下にまとめたものである。

### コロフォンについて

本テキストは、以上のように經典の最初の部分からの法数などをまとめただけのテキストであり、著者（というよりは編者）自身の言葉は何も述べられていない。他方で、そのコロフォンから興味深い情報を得ることができる。ただし、これはいつ頃、誰により記されたものなのかは明らかではなく、その記述が、本テキストが本当に Atiśa のものであるということを保証するものでもない。

まず最初に、

尊者がネパールにおいてお与えになり、ネパール人が偈頌で述べたものを完成する。とある。この情報から、本テキストは彼がパネルに滞在していた際に著されたものとなる。彼がネパールに滞在していた年は、1038年から1041年の間のインドからチベットへ向かう旅の途中にあたる<sup>(44)</sup>。次に、本テキストのオリジナルから現前にあたるこのテキストまでの経緯

としては、Atiśa が口頭で伝えたものをネパール人が述べ、それが筆記され、チベット語に訳されたとされている。したがって、本テキストの原初の形が文字で書かれたものであったのかは疑問である。

またピンピサーラ王がその経典を一日に百遍読むことにより息子の命が救われた話を取りあげ、

この小さな十万を一度述べれば、五無間などの一切の罪過が浄化され、清浄になってから、円満なる福德を得るであろう。

と述べられている。そして最後に、

Atiśa は12年間経典を見られたので、この小さな十万だけでも大きな利益があるので、後世の人がこれを念誦することはとても重要である。

と述べている。したがって、この文章が記された時点では、本テキストは経典にどのような教義が説かれているのかを解説するという性格のものとしてはとらえられておらず、膨大な経典を読むことができない者が読誦するためのテキストとして捉えられていたことがわかる。すなわち、テキストの内容を理解することよりも、それを繰り返し読むことが重要であるとされていたテキストである。

## まとめ

本テキストは、Atiśa に帰されるテキストではあるが、前述のように、彼自身の言葉はなく、その大部分は *Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* からの引用文から再構成したものである。そうとは言え、ここに引用される文の分量は、同経の全体から見れば、極僅かなものであり、またそのトピックのほとんどはその冒頭の部分から回収することができる。したがって、本テキストは経典全体の構成を把握した後に、重要なポイントを抜き出してテキストを再構成したものというよりも、読誦するためのテキストとして簡易に編纂されたものであろう。それ故に、そこから著者独自の思想や解釈を抽出することは難しく思われる。

では、本書が *Dīpaṃkaraśrījñāna* に帰される一連のテキスト群と同一著者によるものと考えていいのであろうか。それを疑う根拠が存在するとするのならば、本テキストは、その他のテキストとは異なりチベット大蔵経に収められておらず、異なる伝承系譜を有しているということをおげることができる。しかし、これは消極的な根拠にしかなりえない。また本論が彼の著書であるということをお疑う説が存在するということは、筆者の知見するところではない。他方で、チベット語訳者に関する情報もなく、いつ頃チベットに伝わったのかが明らかではない。今後の検討余地として、本テキストがいつ頃からチベットで知られるようになったのかと、彼が特定の経典、すなわち多くの大乘経典の中でも *Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* を読誦することを奨励していたのかということをおあわせて、その著者性を検討する必要がある。

## 注記

- (1) 拙稿「ディーバンカラシュリージュニャーナの『菩提道灯論細疏』和訳(2)」『大崎学報』第155号, pp.25-26.
- (2) 彼の名前に対するチベット語訳のヴァリエントについては、A. Chattopadhyaya, *Atiśa and Tibet*, Calcutta 1967, p.34 を参照。
- (3) 本テキストの著者(というよりも編者)と *Bodhipathapradīpa* の著者と同一性を熟考した上で、本テキストの著者名を論じるべきであるが、それに関しては別の機会に譲る。
- (4) Tib. D. Na 3948, Khi 246a5-6.
- (5) E. Conze, *Vajracchedikā Prajñāpāramitā*, Roma 1957, pp.56-57.ただし、ここでは「『般若経』より」とあり、他の般若経からの引用である可能性がある。Cf. H. Eimer, *Bodhipathapradīpa*, Wiesbaden 1978, p.177; 拙稿「アティージャの『菩提道灯論細疏』和訳(1)」『身延論叢』第3号, 1998, p.23.
- (6) Tib. D. Na 3948, Khi 276a4-5.
- (7) Tib. D. Na 3948, Khi 283b6-7.
- (8) Tib. D. Na 3948, Khi 274b7, 284b1. ただし、前者は第三者による引用文である。
- (9) Tib. D. Na 3948, Khi 246a6, 254b5-6, 284a2-3.
- (10) Tib. D. Na 3930, Ki 98a2-3: *Yum chen mo 'bum pa*. 引用箇所の確認はできていない。
- (11) Tib. D. Na 3930, Ki 98a4-5.
- (12) *Aṣṭasahāsrikāprajñāpāramitāsūtra*. Vaidya ed., p.209.
- (13) *Aṣṭasahāsrikāprajñāpāramitāsūtra*. Vaidya ed., p.14.
- (14) Tib. D. Na 3930, Ki 101a2-3. Cf. Kaie Mochizuki, *Der Bodhicitta-Abschnitt in Atiśas Ratnakaraṅdoghāta*, 『勝呂信静博士古希記念論文集』(山喜房仏書林, 1996年), p.61.
- (15) Tib. D. Na 3930, Ki 104a2. Mochizuki, *op. cit.*, p.69.ただし、テキストに混乱があり、この引用文の途中に「大乘經典と『入菩提行論』を見るべきである」という文章が挿入されている。
- (16) *Aṣṭasahāsrikāprajñāpāramitāsūtra*. Vaidya ed., p.193. Mochizuki, *op.cit.*, p.70.
- (17) Tib. D. Na 3930, Ki 104a4-5.
- (18) Tib. D. Na 3930, Ki 105b4-5.
- (19) Tib. D. Na 3930, Ki 98a1-2.
- (20) Tib. D. Na 3961, Gi 9a2-4, 29a7-31b7, 35b3-37a1, 103a3-6, 112a1-3, 155b5-7, 159a6-b1. Cf. Kaie Mochizuki, *Die von Atiśa im Mahāsūtrasamuccaya* zitieren Sūtren, 『印度学仏教学研究』44-1, 1995, pp.(16)-(19). なおこれらの引用に関しては、拙稿「アティージャと般若経」(日本宗教学会第60回学術大会発表資料, 2001年, 久留米大学)を参照。
- (21) Tib. D. Na 3961, Gi 111b7-112a1, 188a2-b3, 195a5-6.

- (22) Tib. P. Na 5222, *Shes rab snying po'i rnam par bshad pa*. Cf. 拙稿「Atiśa の *Prajñāhrdayavyākhyā* について」『印度学仏教学研究』39-2, 1991, pp.(203)-(206).
- (23) Tib. P. Na 5202, *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i don bsdu sgron ma*. Cf. 拙稿「Dīpaṃkaraśrījñāna の *Prajñāpāramitāpinḍārthapradīpa* について」『身延山大学仏教学部紀要』1, 2000; On the *Prajñāpāramitāpinḍārthapradīpa* of Dīpaṃkaraśrījñāna, 『印度学仏教学研究』49-2, 2001, pp.(50)-(56).
- (24) Tib. P. Na 734, *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa brgyad stong pa*. Tr. Śākyasena, Jñānasiddhi, Dharmatāśīla, etc.; rev. Subhāṣita, Rin chen bzang po; rev. Dīpaṃkaraśrījñāna, Rin chen bzang po; rev. Dīpaṃkaraśrījñāna, rGyal ba'i 'byung gnas; rev. rGyal ba'i 'byung gnas; rev. Blo ldan shes rab.
- (25) Tib. P. Na 5189, *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa brgyad stong pa'i bshad pa mngon par rtogs pa'i rgyan gyi snang ba*. Tr. Subhāṣita, Rin bzang po; rev. Dīpaṃkaraśrījñāna, Rin chen bzang po, Dhirapāla, Blo ldan shes rab.
- (26) この経緯については、*Deb ther sngon po* にも説かれている。Cf. G. N. Roerich, *The Blue Annals*, repr., Delhi 1979, pp.249, 羽田野伯猷『チベット・インド学集成第一巻 チベット篇 I』(法蔵館, 1987年), p.78.
- (27) Cf. Edward Conze, *The Pñāpāramitā Literature*, 2nd ed., Tokyo 1978, pp.31-34; 三枝充恵『般若経の真理』(春秋社, 1971年), pp.68-69; 渡辺章悟「1 般若部」(勝崎裕彦他編『大乘経典解説事典』北辰堂, 1997年), pp.70-71. 同経の写本に関する情報に関しては、木村高尉「『梵字貴重資料集成』にみる十万頌般若」(『真野龍海博士頌寿記念論文集 般若波羅蜜多思想論集』山喜房仏書林, 1992年), p.147 を参照。また、同経と *Pañcaviṃśatisāhasrikā* との関係について、副島正光『般若経典の基礎的研究』(春秋社, 1980年), pp.82-86を参照。
- (28) E. Obermiller, *The Doctrine of Prajñāpāramitā as exposed in the Abhisamayālamkāra of Maitreya*, *Acta Orientaria* XI, 1933, p.10, n.1 は、このテキストがインドで作られたことを疑っている。
- (29) Chizuko Yoshimizu, *Descriptive Catalogue of the Naritasan Institute Collection of Tibetan Works*, Vol.1, Narita 1989, Na 2382; Y. Kanakura et al., *A Catalogue of the Tohoku University Collection of Tibetan Works on Buddhism*, Sendai 1953, Na 6542.
- (30) 以下に述べるように、本テキストは『十万頌般若経』の最初の部分を抜粋したものである。このことから、同経のサンスクリット・テキストから本テキストのサンスクリットを推定することは容易に可能となる。
- (31) この他に、M. Lalou, *Catalogue du fonds tibétain de la Bibliothèque Nationale*, IV1. Les Mdo-Mañ, Paris 1931, Na 102, f. 322b-328a がある。Cf. Conze, *op. cit.*, p.34.

- (32) テキストは、横が長い版で、一枚に6行で組まれている(1-6b4)。
- (33) テキストは、比較的大きな文字で、一枚に4行(ただし1b-2aは3行)で組まれている。本テキスト(1-18b4)に続いて、*Śatasāhasrikaprajñāpāramitāgarbha* (*Shes rab kyi pha rol tu phyin pa stong phrag brgya pa'i snying po*)というテキストが収められている(19a1-b4)。
- (34) テキストは、横が短い版で、一枚に5行で組まれている。本テキスト(1-19b4)に続いて、*Sarvatathāgatāhrdaya* (*De bzhin gshegs pa thams cad kyi snying po*)というテキストが収められている(19b5-21a5)。
- (35) ブック・スタイルで出版されたものであり、1ページ16行からなり、本テキスト(pp.3-16)に続いて、*Byis pa'i gdon chen bco lnga zhi bar byed pa dang gzungs le tshan brgyad*というテキストが収められている(pp.17-31)。本書については、野村正次郎氏(早稲田大学)にお教え頂いた。ここに御礼申し上げます。
- (36) Lokesh Chandra, *Tibetan-Sanskrit Dictionary*, repr., Kyoto 1959, p.1767.
- (37) Lokesh Chandra, *op. cit.*, p.1155.
- (38) チベット語訳のそれぞれの版の最初のページには、SB: '*Bum bsdus pa'i snying po*, SD: '*Bum gyi bsdus don snying po dang bcas pa* というものも見られる。
- (39) *Dīpaṃkaraśrījñāna* に帰される「心髄撰集」のチベット語タイトルに関しては、拙稿「アティーシャに帰される二つの『心髄撰集』について」『宗教研究』315号, 1998年, pp.205-206を参照。
- (40) 色・受・想・行・識・眼・耳・鼻・舌・身・意・一切智。
- (41) 四念住・四正断・四神足・五根・五力・七等覚支・八聖道。このうち、最初の五項目に関しては、彼の *Bodhisattvacāryāvatārabhāṣya* において詳論されている。Cf. 拙稿「*Dīpaṃkaraśrījñāna* の *Bodhisattvacāryāvatārabhāṣya* について」『印度学仏教学研究』47-1, 1998年, p.(178)。
- (42) ここでは「如来の十力と四無畏と四無量と大慈と大悲と大喜と大捨と十八不共法と」と説かれており、「十力・四無畏・三念住・大悲」との十八項目とは別の項目と思われる。Cf. 宮元啓一『仏教法数辞典』(すずき出版, 2000年), pp.328-331.
- (43) P. Ghoṣa ed., *Śatasāhasrikaprajñāpāramitā*, Calcutta 1902, pp.56-67.
- (44) Cf. A. Chattopadhyaya, *Tibetan Chronological Tables of 'Jam-dbyangs bzhed-pa and Sum-pa mkhan-po*, Sarnath 1993; 羽田野伯猷前掲書, pp.75-76; Alaka Chattopadhyaya, *op.cit.*, pp.308-311.

## 『十万頌般若波羅蜜撰集』和訳

インドの言葉で *Satasāhasrikāprajñāpāramitā*<sup>(1)</sup>

チベット語で、『十万頌般若波羅蜜<sup>(2)</sup>の意味を誤りなく集める』

一切智の母<sup>(3)</sup>に帰依をする。

次のように私が聞いたある時に、世尊は王<sup>(4)</sup>舎城<sup>(5)</sup>の鷲峯山に五千人の比丘の大サンガと、とても多くの菩薩摩訶薩と一緒にいられた。すべての者も阿羅漢で、漏尽で、無煩惱で、自在を得て、心解脱し、慧解脱し<sup>(6)</sup>、すべてを知り<sup>(7)</sup>、象 [に似ており]、なすべきことをなしており、なすことをなし、重荷を捨てて、自分の目的を得て、存在への結合が完全に尽き、正知により心はよく解脱している菩薩摩訶薩たち<sup>(8)</sup>と、聖アヴァローキテーシュヴァラと、スプーティと、アーナンダと長老たちと、大サンガと<sup>(9)</sup>、天と人と非天<sup>(10)</sup>などの究極の衆生たちに、世尊・如来・阿羅漢・等正覚仏・釈迦牟尼が六十兆那由多の光を放つことが見られ、三十二相と八十随好により飾られたものが明らかに現われた。それから長老たちが世尊に<sup>(11)</sup>帰依し、供養の異門<sup>(12)</sup>である不可思議なものを供養し、与えて、世尊は長老たちに次のようにお説きになられた。

スプーティと、アーナンダと、長老たちと、菩薩摩訶薩が般若波羅蜜を確実に生じるように、あなたたちも挑みなさい。

六境と<sup>(13)</sup>五蘊である。色・受・想・行・識である<sup>(14)</sup>。

十二処から<sup>(15)</sup>、六根である。眼・耳・鼻・舌・身<sup>(16)</sup>・意・色・声・香・味・触・法である。識の意味は、眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識である。

触の意味は<sup>(17)</sup>、眼触・耳触・鼻触・舌触・身触・意触である。

触の縁による受の意味は、眼触の縁による<sup>(18)</sup>受と、耳触の縁による受と、鼻触の縁による受と、舌触の縁による受と、身触の縁による受と、意触の縁による受とである。

六界の意味は、地界・水界・火界・風界・虚空界・識界である。

十二縁起の意味は、無明・行・識・名色・六入・触・受・愛・取・有・生・老死である。

作者の十二処の意味は、我者・衆生・命・有情・養育・人・ブドガラ・マヌの子孫<sup>(19)</sup>・作者・受者・識者・見者である。

欲界の [六] 種天<sup>(20)</sup>が存在する。[すなわち] 四大王衆天が存在する。三十三天が存在する。夜摩天が存在する。覩史多天が存在する。樂變化天が存在する。他化自在天が存在する。色界の十七種天<sup>(21)</sup>が存在する。[すなわち] 梵衆天が存在する。梵輔天が存在する。梵会天が存在する。大梵天が存在する<sup>(22)</sup>。光天が存在する<sup>(23)</sup>。少光天が存在する<sup>(24)</sup>。無量光天が存在する。

極光浄天が存在する。浄天が存在する。少浄天が存在する<sup>(25)</sup>。無量浄天が存在する。遍浄天が存在する。広天が存在する。少広天が存在する。無量広天が存在する。広果天が存在する<sup>(26)</sup>。無繁天が存在する。無熱天が存在する。善見天が存在する。善現天が存在する。色究竟天が存在する。無色界が四天<sup>(27)</sup>が存在する。[すなわち]空無辺処天が存在する<sup>(28)</sup>。識無辺処天が存在する。無所有処天が存在する。非想非非想処天が存在する<sup>(29)</sup>。

色から一切智性まで<sup>(30)</sup>の浄化の意味は、色を浄化し、色の浄化により受を浄化し<sup>(31)</sup>、受の浄化により行を浄化し、行の浄化により想を浄化し、想の浄化により識を浄化し、識の浄化により眼を浄化し、眼の浄化により耳を浄化し、耳の浄化により鼻を浄化し、鼻の浄化により舌を浄化し、舌の浄化により身を浄化し、身の浄化により意を浄化し、意の浄化により<sup>(32)</sup>一切相智までを浄化する。そのようならば、意が浄化され、一切相智までが浄化される。ここに二はない。すなわち二様になすべきでなく、それぞれでなく、異ならないことである。

色を完全にし、色を完全にすることにより、受を完全にし<sup>(33)</sup>、受<sup>(34)</sup>を完全にすることにより、想を完全にし、想<sup>(35)</sup>を完全にすることにより、行を完全にし、行<sup>(36)</sup>を完全にすることにより、識を完全にし、識<sup>(37)</sup>を完全にすることにより、眼を完全にし、眼<sup>(38)</sup>を完全にすることにより、耳を完全にし<sup>(39)</sup>、耳を完全にすることにより、鼻を完全にし、鼻を完全にすることにより、舌を完全にし、舌を完全にすることにより、身を完全にし、身を完全にすることにより、意を完全にし、意を完全にすることにより、一切智までを完全にする。すなわちそのようならば意が完全になり、一切相智までが完全になる。ここに二はない。すなわち二様になすべきでなく、それぞれでなく、異ならないことである。

すなわち、施波羅蜜と、戒波羅蜜と、忍波羅蜜と、精進波羅蜜と、禪波羅蜜と、般若波羅蜜<sup>(40)</sup>、内空性と、外空性と、内外空性と、空空性と、大空性と、勝義空性と、有為空性と、無為空性と、畢竟空性と、無際空性と<sup>(41)</sup>、散空性と、本性空性と、一切法空性と、自相空性と、不可得空性と、無性空性と、自性空性と、無性自性空性と、四念住<sup>(42)</sup>と、四正断<sup>(43)</sup>と、四神足<sup>(44)</sup>と、五根<sup>(45)</sup>と、五力<sup>(46)</sup>と、七等覺支<sup>(47)</sup>と、八聖道支<sup>(48)</sup>と、四聖諦<sup>(49)</sup>と、四禪<sup>(50)</sup>と、四無量<sup>(51)</sup>と、四無色定<sup>(52)</sup>と、八解脱<sup>(53)</sup>と、九次第定<sup>(54)</sup>と、[三]解脱門<sup>(55)</sup>の空性と、無相と、無願と、五<sup>(56)</sup>神通<sup>(57)</sup>と、三昧と、陀羅尼の門と、如来の十力<sup>(58)</sup>と、四無畏<sup>(59)</sup>と、四無礙<sup>(60)</sup>と、大慈<sup>(61)</sup>と、大悲<sup>(62)</sup>と、大喜<sup>(63)</sup>と、大捨<sup>(64)</sup>と、十八不共法<sup>(65)</sup>と、預流果と、一來果と、不還果と、阿羅漢果と、獨覺と、一切智性と道智性と一切相智性<sup>(66)</sup>と、一切の身体の行為に智慧が先行し<sup>(67)</sup>、智慧が随行する。一切の言葉の行為に智慧が先行し、智慧が随行する。一切の意の行為に智慧が先行し、智慧が随行する。過去時において無障無礙の智慧の視力が入る<sup>(68)</sup>。未来時において無障無礙の智慧の視力が入る。現在時において無障無礙の智慧の視力が入る。

世尊の「その如く」というお言葉と、それら菩薩摩訶薩と、スプーティと、アーナンダと、長老たちと、彼ら比丘の大サンガと、天と、人と、非天と、ガンダルバ<sup>(69)</sup>をとともなう世間を喜

ぶものである、世尊がお説きになられたものを明らかに賞賛した。

一切の如来の母<sup>(70)</sup>、『十万頌般若波羅蜜の意味を誤りなく集めたもの』を偈頌で述べたものを完成する<sup>(71)</sup>。

尊者がネパールにおいて与えになられ、ネパール人が偈頌で述べたものを完成する。これは、世尊が在世の時に、ピンピサーラ王とマガティ王妃の大善をなした息子が一人おり、彼が事故にあって死に至る時に、世尊の前で王は嘆いた。次のように、質問をした<sup>(72)</sup>。「世尊よ、私の一人の子供がおり、死に至るので、病気から救われる<sup>(73)</sup>一つの方法をお教え下さい」と問うので、世尊のお口から「王も、三宝に供養し、六種を満たす水を注ぎ、大きな十万を一日に百度読んだならば、非時で、死より後退し、病気から救われるであろう」と説かれるので、王が質問して、「世尊よ、大きな十万が一日に百度生じた一つの方法をお教え下さい」と問うので、世尊がこの小さな十万をお説きになられ、王がこの小さな十万をすぐに読誦をした。王子は病気から救われた後に長寿になり、財産が円満であり、国土は安穩で、豊作となり、六種のそれぞれの究極なる苦から脱し<sup>(74)</sup>、寿命が長く、将来悟りを得ることになった。さらにまたこの小さな十万を一度述べれば、五無間などの一切の罪過を浄化し、清浄にしてから、円満なる<sup>(75)</sup>福徳を得るであろう。

吉祥をそなえた尊者アティシャは12年の間經典を見られたので、この小さな十万だけで大きな利益があるので、後世の人もこれを念誦することをとても重要なものとして説かれている。

『大十万頌般若波羅蜜の心髓をまとめた小十万』を完成する。吉祥なれ。校正を二度なした<sup>(76)</sup>。

## 訳注

- (1) SB のみ「七千 (*sha pta sa ha sri kā*)」とあるが、『十万頌 (*Satasāhasrikā*)』、『七百頌 (*Saptaśatikā*)』の混乱から生じた誤りであろうか。
- (2) ST のみ「聖 (*'phags pa*)」が付される。チベット大蔵経では、一般に經典テキストのタイトルにはこの語が付されている。本テキストが『十万頌般若経』を凝縮したものとしての経なのか、アティシャによる論なのかの判断の相違が影響したのであろうか。
- (3) SB のみがこのように説き、他の版は「一切を起こした母 (*thams cad bskyed pa'i yum*)」とする。
- (4) ST は「世尊は甚深なる顕現という三昧から起きてから (*gambhīrāvabhāsa*)」という句が挿入される。

- (5) SB は「王舎城」を欠く。
- (6) SD, ST は「慧解脱」を欠く。
- (7) SBは、「知ることく」とする。
- (8) *Śatasāhasrikāprajñāpāramitāsūtra* (=ŚP), Goṣa, *op. cit.*, pp.2-4:  
 evam mayā śrutam ekasmin samaye bhagavān rājagr̥he viharati sma / gr̥dhraḥkūṭa-  
 parvate mahatā bhikṣu-saṅghena sārddham pañca-mātrair bhikṣu-sahasraiḥ savair  
 arhadbhiḥ kṣauṇāśrvair niḥkleśair vaśaubhūtaiḥ suvisuktavittaiḥ suvimukta-prajñair  
 ājāneyair mahānāgaiḥ kṛta-kṛtyaiḥ kṛta-karaṇauyaiḥ apahr̥tabhāir anuprāpta-  
 svakārthaiḥ parikṣauṇa-bhava-samyojanaiḥ samyag-ājñā-suvimukta-cittaiḥ sarvacetovaśi-  
 parama-pāramitā-prāptair eka-pudgalaṃ sthāpayitvā /
- (9) ST は、「長老たちと大サンガと」を欠く。
- (10) SB, ST は、「非天と」を欠く。
- (11) ST は、「世尊に」を欠く。
- (12) SB は、「異門を説いた」とし、続く句を欠く。
- (13) SK は、「から (las)」とするが、この「六境と」という句は、次の「十二処から六境と六根であ  
 る」とすべき句がこの位置に来てしまったように思える。これがいつの頃からか、誤ったまま読誦さ  
 れるようになったのであろう。
- (14) STは、以下の項目（ただし「六根」は「法である (chos so)」とする）において「識と (dang)」  
 のように、次の項に続けている。
- (15) ST は、「と (dang)」とする。
- (16) SD は、「身と口と」とする。
- (17) SB, SK は、この句を欠く。
- (18) SB は、以下の項も「縁の (gyi)」とする。
- (19) SB 以外は、この前に「余人 (shed can)」を入れるが、それでは十三項目になる。
- (20) ŚP, Skt.; Goṣa, *op. cit.*, p.24.2-13; Tib. D. No 8, Ka13a3.
- (21) ŚP, Skt.; Goṣa, *op. cit.*, p.24.13-26.7; D. No 8, Ka 13a3-14a4.
- (22) ST は、この項を欠く。
- (23) SB, SK, STは、この項を欠く。
- (24) SB は、この項を欠く。
- (25) SB は、この項を欠く。
- (26) ST は、ここまでの三項を欠く。
- (27) ŚP は、上記の箇所では「無色界の四天」には言及しない。
- (28) SB は、この項を欠く。

- (29) ST は、この後に、「六波羅蜜」から「如来の十力」までの項目が挿入されている。
- (30) SD, ST は、「色から一切智性まで」を欠く。
- (31) SB は、以下の項目を含め、「色の浄化により、色を浄化し、受の浄化により」というパターンが続き、ST は、「色の浄化と、受の浄化と」とその原因にあたるものを欠いたパターンが続く。
- (32) SB は、ここに「識の浄化により識を浄化し」という句が挿入される。
- (33) SB は、以下の項目も含め、「色の完全にすることにより、色を完全にし、受を完全にすることにより」というパターンが続く。
- (34) ST は、「受」の項目が「声」となる。
- (35) ST は、「想」の項目が「香」となる。
- (36) ST は、「行」の項目が「味」となる。
- (37) ST は、「識」の項目が「触」となる。
- (38) ST は、「眼」の項目が「法」となる。
- (39) ST は、「耳」の代わりに「眼識を完全に浄化してから、意識を完全に浄化する」と述べ、以下の説明を欠いている。
- (40) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.56.3-9; Tib. D. Na 8, Ka 36b2-5.
- (41) SB は、ここに「自相空と」が入る。
- (42) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.56.9-11; Tib. D. Na 8, Ka 36b5-6.
- (43) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.56.11-57.1; Tib. D. Na 8, Ka 36b6-7.
- (44) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.57.1-3; Tib. D. Na 8, Ka 36b7-37a1.
- (45) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.57.3-4; Tib. D. Na 8, Ka 37a1-2.
- (46) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.57.5-9; Tib. D. Na 8, Ka 37a2.
- (47) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.57.6-8; Tib. D. Na 8, Ka 37a2-3.
- (48) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.57.8-10; Tib. D. Na 8, Ka 37a3-4.
- (49) ŚP では、このコンテキストにおいて「四聖諦」は説かれていない。
- (50) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.57.16-58.1; Tib. D. Na 8, Ka37a7.
- (51) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.58.1-3; Tib. D. Na 8, Ka 37a7-b1.
- (52) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.58.3-5; Tib. D. Na 8, Ka 37b1-2.
- (53) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.58.5-7; Tib. D. Na 8, Ka 37b2-3.
- (54) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.58.7-9; Tib. D. Na 8, Ka 37b3-4.
- (55) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.57.10-16; Tib. D. Na 8, Ka 37a4-7.
- (56) ST のみが、「五」を付す。
- (57) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.58.10-11; Tib. D. Na 8, Ka 37b4-5.
- (58) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.66.7-9; Tib. D. Na 8, Ka 41a6-7.

- (59) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.65.6-8; Tib. D. Na 8, Ka 40b7-41a1.
- (60) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.65.4-6; Tib. D. Na 8, Ka 40b7.
- (61) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.66.11-13; Tib. D. Na 8, Ka 41b1.
- (62) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.66.13-15; Tib. D. Na 8, Ka 41b1-2.
- (63) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.66.15-17; Tib. D. Na 8, Ka 41b2-3.
- (64) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.66.17-61.1; Tib. D. Na 8, Ka 41b3-4.
- (65) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.66.9-11; Tib. D. Na 8, Ka 41a7-b1.
- (66) ŚP, Skt.; Goṣha, *op. cit.*, p.67.1-6; Tib. D. Na 8, Ka 41b4-6.
- (67) ST は、この項目以下を欠く。
- (68) ST は、「過去時」の項しか述べず、「未来時・現在時」の項を欠く。
- (69) ST は、「食形鬼と、大腹行」が続く。
- (70) ST は、ここに長文のコロフォンが添えられている。
- (71) SD は、ここでテキストが終わっている。
- (72) ST は、この句を欠く。
- (73) ST は、「彼が死なない」とある。
- (74) ST では、この句以後が欠落し「さらにまた功德は究極である。尊者はネパールにおいてお与えになり、ネパールが偈頌で述べたものを完成する」という他の版では前に述べた句が挿入される。
- (75) ST は、「十万の」とする。
- (76) これらの句は、SBのみに見られる。

## The Tibetan Text of the Śatasāhasrikāprajñāpāramitā

\*\*<sup>1</sup> // rgya gar skad du / sha ta<sup>2</sup> sā<sup>3</sup> ha sri kā<sup>4</sup> pradznyā pā<sup>5</sup> ra mi tā<sup>6</sup> /  
bod skad du / shes rab<sup>7</sup> kyi pha rol ru phyin pa stong phrag brgya pa'i don ma  
nor bar bsdu<sup>8</sup> (SD. 2a) pa /

thams cad mkyen<sup>9</sup> pa'i yum la phyag 'tshal lo //

'di skad bdag gis thos pa'i<sup>10</sup> dus gcig<sup>11</sup> na / bcom ldan (SK. 2a) 'das<sup>12</sup> rgyal  
po'i khab (SD. 2b) kyi<sup>13</sup> bya rgod phung po'i ri la dge slong lnga stong tsam<sup>14</sup>  
gi dge slong gi<sup>15</sup> dge 'dun chen po<sup>16</sup> dang / <sup>17</sup>byang chub sems dpa' sems dpa'  
chen po rab tu mang po dag dang<sup>17</sup> thabs gcig<sup>18</sup> ste<sup>19</sup> / thams cad kyang dgra  
bcom pa / zag pa' zad pa / nyon mongs pa med (SK. 2b) pa / dbang du gyur  
pa / sems shin tu rnam par grol ba / (SD. 3a) shes rab shin tu rnam par grol  
ba<sup>20</sup> / cang shes (SB. 2a) pa<sup>21</sup> / glang po chen po / bya ba byas pa<sup>22</sup> / byed pa  
byas pa / khur bor ba / bdag<sup>23</sup> gi don rjes su<sup>24</sup> thob pa / srid pa<sup>25</sup> kun tu

---

1 SB: 'Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa 'bum bsdu pa'i snying po zhes bya ba  
bzhugs so; SD: 'Bum gyi bsdu don snying po dang bcas pa bzhugs so; SK: sTong phrag  
brgya pa'i don ma nor bar bsdu pa bzhugs so.

2 SB: pta. 3 SB, SK, ST: sa. 4 ST: ka. 5 SB, SD, ST: pa. 6 SB, ST: ta.

7 ST: 'phags pa shes rab. 8 SB: sdus. 9 SD, SK, ST: bskyed. 10 ST: pa.

11 B: cig. 12 ST: bcom ldan 'das zab mo snang ba zhes bya ba'i ting nge 'dzin las  
bzhengs nas / bcom ldan 'das. 13 SB om. rgyal po'i khab kyi; SD: kyi ri; ST om. kyi.

14 SB, SD, SK om. 15 SB: slo; SD, SK om. dge slong gi.

16 SD: chen po rab tu mang po. 17 ST om. 18 SD, ST: cig.

19 SB: tu bzhugs so; ST: bzhugs te. 20 SD, ST om. shes rab shin tu rnam par grol ba.

21 SB: ita bu. 22 SB: shing. 23 ST: rang. 24 SB: ma nor for rjes su.

25 SD, ST: par.

sbyor ba yongs su zad pa / bka' (ST. 4) yang dag pa'i<sup>1</sup> sems shin tu nam par  
 grol ba'i byang chub sems (SK. 3a) dpa' sems dpa' chen po rnams<sup>2</sup> dang /  
 'phags (SD. 3b) pa spyen ras gzigs dbang phyug dang / rab 'byor dang / kun  
 dga' po dang<sup>3</sup> / <sup>4</sup>tshe dang ldan pa rnams dang / dge slong gi dge 'dun chen  
 po rnams dang<sup>4</sup> / lha dang mi dang lha ma yin<sup>5</sup> la sogs pa'i<sup>6</sup> sems can mtha'  
 yas pa<sup>7</sup> rnams<sup>8</sup> kyis<sup>9</sup> / (SK. 3b) bcom ldan 'das de bzhin gshegs pa dgra bcom  
 pa (SD. 4a) yang dag par rdzogs pa'i sangs rgyas shākya thub pas<sup>10</sup> 'od zer bye  
 ba khrag<sup>11</sup> khrig brgya stong<sup>12</sup> drug cu<sup>13</sup> 'phro bar<sup>14</sup> gzigs shing<sup>15</sup> / mtshan bzang  
 po sum<sup>16</sup> cu rtsa gnyis dang dpe byad bzang po brgyad cus<sup>17</sup> rab tu brgyan pa<sup>18</sup>  
 mngon par<sup>19</sup> snang bar<sup>20</sup> gyur to // de nas<sup>21</sup> tshe dang ldan pa rnams (SD. 4b)  
 kyis (SK. 4a) bcom ldan 'das la<sup>22</sup> phyag 'tshal<sup>23</sup> zhing mchod pa'i nam grangs<sup>24</sup>  
<sup>25</sup>bsam gyis mi khyab pa gtibs<sup>26</sup> te phul ba dang<sup>27</sup> / bcom ldan 'das kyis tshe  
 dang ldan pa rnams la 'di skad ces<sup>28</sup> bka' stsal to<sup>-25, 29</sup> //

'phags pa spyen ras gzigs dbang phyug dang /<sup>30</sup> rab 'byor dang / (SD. 5a)  
<sup>31</sup>kun (SB. 2b) dga' bo (SK. 4b) dang / tshe dang ldan pa rnams dang<sup>-31</sup> /  
 byang chub (ST. p.5) sems dpa' sems dpa' chen po rnams<sup>32</sup> shes rab kyi pha rol  
 tu phyin pa la<sup>33</sup> nges par 'byung ba<sup>34</sup> de bzhin du khyed<sup>35</sup> rnams<sup>36</sup> spobs<sup>37</sup> par

---

1 SD: pa; K: pas. 2 ST om. rnams. 3 ST: la sogs pa'i. 4 ST om.  
 5 SB, ST om. dang lha ma yin. 6 SD, SK: pa. 7 ST: pas. 8 SB: rnams; ST. om.  
 9 SK: la; ST om. 10 SB, SD: pa la. 11 SB: phrag.  
 12 ST om. khrag khrig brgya stong. 13 SB: bcu. 14 SB: 'pros pa; ST. om. 'phro bar.  
 15 ST: shing 'phros par gyur to // de nas. 16 SK: sup. 17 SB: bcus.  
 18 SB: rgyan pa; ST om. rab tu brgyan pa. 19 SB: du.  
 20 ST: rab tu brgyan par for snang bar. 21 ST om. de nas. 22 ST om. bcom ldan 'das la.  
 23 ST: phul. 24 SB, ST: grangs bstan to (ST: te). 25 SB om. 26 SD: stibs.  
 27 ST: de nas for bsam gyis mi khyab pa gtibs te phul ba dang. 28 ST om. 'di skad ces.  
 29 ST: pa. 30 SD: tshe dang ldan pa rnams dang.  
 31 ST om; D om. tshe dang ldan pa rnams dang. 32 SB om. rnams; ST: rnams kyis.  
 33 SD: las. 34 SK om; T: bar 'gyur ba. 35 ST: khyod. 36 ST om. 37 ST: spob.

byos<sup>1</sup> shig /

yul drug las<sup>2</sup> / phung po lnga'o // gzugs dang / tshor ba dang / 'du shes dang / 'du byed (SD. 5b) dang / mnam par shes pa'o<sup>3</sup> //

skye mched (SK, 5a) bcu gnyis las<sup>4</sup> / dbang po drug go<sup>5</sup> // mig dang / rna ba dang / sna dang / lce dang / lus dang<sup>6</sup> / yid dang / gzugs dang / sgra dang / dri dang / ro dang / reg bya dang / chos so //

<sup>7</sup>mnam par shes pa'i don ni<sup>7</sup> / mig gi mnam par shes pa dang / rna ba'i mnam par shes (SD. 6a) pa dang / sna'i mnam par shes pa dang / lce'i mnam (SK. 5b) par shes pa dang / lus kyi mnam par shes pa dang / yid kyi mnam par shes pa'o<sup>8</sup> //

'dus te<sup>9</sup> reg pa'i don ni / mig gi<sup>10</sup> 'dus te reg pa dang / rna ba'i 'dus te reg (ST. 6) pa dang / sna'i 'dus te reg pa dang / lce'i 'dus (SD. 6b) te reg pa dang / lus kyi 'dus te reg pa dang / yid kyi 'dus te reg pa'o<sup>11</sup> //

<sup>12</sup>reg pa'i rkyen gyis tshor ba'i don ni<sup>12</sup> / (SK. 6a) mig gi 'dus te reg pa'i rkyen gyis<sup>13</sup> tshor ba dang / rna ba'i 'dus te reg pa'i rkyen gyis<sup>14</sup> tshor ba dang / sna'i 'dus te reg pa'i rkyen gyis<sup>15</sup> tshor ba dang / lce'i 'dus te reg pa'i (SD. 7a) rkyen gyis<sup>16</sup> tshor ba dang / lus kyi 'dus te reg pa'i rkyen gyis<sup>17</sup> tshor ba dang / yid kyi 'dus te reg pa'i rkyen (SK. 6b) gyis<sup>18</sup> tshor ba'o<sup>19</sup> //

khams<sup>20</sup> drug gi don ni / sa'i khams<sup>21</sup> dang / (SB. 3a) chu'i khams<sup>22</sup> dang / me'i khams<sup>23</sup> dang / rlung gi khams<sup>24</sup> dang / nam mkha'i<sup>25</sup> khams dang / rnam (SD. 7b) par shes pa'i khams so<sup>26</sup> //

1 ST: *gyis*. 2 SB, SD, ST: *dang*. 3 ST: *pa dang*. 4 ST: *dang*. 5 SB: *dang*.

6 SD: *dang ngag dang*. 7 SB, SK om. 8 ST: *dang*. 9 ST om. 'dus te.

10 SB: *gyis*. 11 ST: *dang*. 12 SB om. 13 SB: *gyi*. 14 SB: *gyi*.

15 SB: *gyi*. 16 SB: *gyi*. 17 SB: *gyi*. 18 SB: *gyi*. 19 ST: *ba dang*.

20 ST: *kams*, 21 ST: *kams*, 22 ST: *kams*, 23 ST: *kams*, 24 ST: *kams*,

25 SB, ST: *namkha'i*. 26 SB: *khamso*; ST: *kams dang*.

rten cing<sup>1</sup> 'brel bar<sup>2</sup> 'byung ba<sup>3</sup> bcu gnyis kyi don ni / ma rig pa dang /  
'du byed dang / mam par shes pa dang / ming dang / gzugs dang / skye  
mched drug dang / (SK. 7a) reg pa dang / tshor ba dang / (ST. 7) sred pa  
dang / len pa dang / srid pa dang / skye ba dang / rga shi'o<sup>4</sup> //

byed pa po'i (SD. 8a) skye mched bcu gnyis kyi don ni / bdag dang /  
sems can dang / srog dang / 'gro ba dang / gso ba dang / skyes bu dang /  
gang zag dang / shed<sup>5</sup> bdag dang / byed pa po dang / tshor ba po (SK. 7b)  
dang / shes pa po dang / mthong, ba po rnam so<sup>6</sup> //

'dod kham s kyi lha'i (SD. 8b) rigs<sup>7</sup> rnam yod do // rgyal chen rigs<sup>8</sup> bzhi'i  
lha<sup>9</sup> rnam yod do // sum cu rtsa gsum pa'i<sup>10</sup> lha rnam yod do // mtshe<sup>11</sup> ma'i  
lha rnam yod do // dga' ldan gyi lha rnam yod do // 'phrul<sup>12</sup> dga'i lha rnam  
yod do // gzhan<sup>13</sup> 'phrul<sup>14</sup> dbang byed kyi lha rnam yod do // (SK. 8) gzugs  
kham s gnas rigs (SD. 9a) bcu bdun gyi lha rnam yod do // tshangs ris<sup>15</sup> kyi  
lha rnam yod do // tshangs<sup>16</sup> lha nye phan gyi lha rnam yod (ST. 8a) do //  
tshangs<sup>17</sup> pa kun 'khor gyi lha rnam yod do // <sup>18</sup>tshangs<sup>19</sup> chen gyi lha rnam  
yod do // <sup>20</sup>tshangs lha nye chen gyi lha rnam yod do<sup>-18, -20</sup> // <sup>21</sup>snang ba'i lha<sup>22</sup>  
rnam yod do<sup>-21</sup> // chung<sup>23</sup> snang gi lha rnam yod (SD. 9b) do // tshad (SK.  
8b) med snang ba'i lha rnam yod do // kun<sup>24</sup> snang dang<sup>25</sup> ba'i<sup>26</sup> lha rnam<sup>27</sup>  
(SB. 3b) yod do // dge ba'i lha rnam<sup>28</sup> yod do // <sup>29</sup>chung dge'i lha rnam yod  
do<sup>-29</sup> // tshad med dge ba'i lha rnam yod do // <sup>30</sup>dge rgyas kyi lha rnam yod  
do // che ba'i lha rnam yod do // chung che'i lha rnam yod do<sup>-30, -31</sup> // tshad

1 SB om. 2 SB, SD om. 3 SD om. ba; SB, ST om. 'byung ba. 4 ST: shi dang.

5 SB: gshed; SD, SK, ST: shed (SK: shad) can (SD. om. can) dang.

6 SB: mamso; ST: dang. 7 ST: 'i rigs lha. 8 SB, ST om. 9 ST: rigs kyi lha.

10 SK: gyi. 11 SB: tshe. 12 SB: 'khrul. 13 SB: bzhan. 14 SB: 'khrul.

15 SB: tshang rigs. 16 SB: tshang. 17 SB: tshang. 18 ST. om. 19 SB: tshang.

20 SB, SK, ST om. 21 SB. om. 22 SD, ST: lha'i. 23 SD: chu; ST: 'od.

24 ST: kun tu. 25 SD, ST om. 26 SD: gi. 27 SB, ST: rnam s. 28 ST: rnam s.

29 SB om. 30 ST om. 31 SB: yodo.

med che ba'i lha (SD. 10a) rnams yod do // 'bras bu che ba'i lha rnams yod do // (SK. 9a) mi che ba'i lha rnams yod do // mi gdung ba'i lha rnams yod do // shin tu mthong ba'i lha rnams yod do // gya nom snang ba'i lha rnams yod do<sup>1</sup> // 'og min gyi lha rnams yod do // gzugs med skye mched mu bzhi'i lha (SD. 10b) rnams yod do // <sup>2</sup>nam mkha' mtha' yas skye mched kyi lha rnams yod do<sup>2</sup> // (SK. 9b) rnam shes mtha' yas skye mched kyi<sup>3</sup> lha rnams yod do // cung zad med pa'i skye mched kyi lha rnams yod do // 'du shes med (ST. 9) 'du shes med<sup>4</sup> min skye mched kyi lha rnams yod do<sup>5</sup> //

<sup>6</sup>gzugs nas rnam pa thams cad mkhyen pa<sup>7</sup> nyid kyi<sup>8</sup> bar<sup>6, 9</sup> rnam par dag<sup>10</sup> pa'i don<sup>11</sup> ni / gzugs<sup>12</sup> rnam par (SD. 11a) dag pa<sup>13</sup> / <sup>14</sup>gzugs rnam par dag pas<sup>14, 15</sup> / tshor ba rnam par dag pa<sup>16</sup> / (SK. 10a) <sup>17</sup>tshor ba rnam par dag pas<sup>17, 18</sup> / 'du shes rnam par dag pa<sup>19</sup> / <sup>20</sup>'du shes rnam par dag pas<sup>20, 21</sup> / 'du byed rnam par dag pa<sup>22</sup> / <sup>23</sup>'du byed rnam par dag pas<sup>23, 24</sup> / rnam par shes pa rnam par dag pa<sup>25</sup> / <sup>26</sup>rnam par shes pa rnam par (SD. 11b) dag pas<sup>26, 27</sup> / mig rnam par dag pa<sup>28</sup> / <sup>29</sup>mig rnam par dag pas<sup>29, 30</sup> / rna ba rnam par dag pa<sup>31</sup> / (SK. 10b) <sup>32</sup>rna ba rnam par dag pas<sup>32, 33</sup> / sna rnam par dag pa<sup>34</sup> / <sup>35</sup>sna rnam par (SB. 4a) dag pas<sup>35, 36</sup> / lce rnam par dag pa<sup>37</sup> / <sup>38</sup>lce rnam par dag pas<sup>38, 39</sup> /

- 
- 1 ST inserts here *shin tu mthong ba'i lha rnams yod do*.      2 SB om.  
 3 SB: *mu bzhi'i*.      4 SD om. *'du shes med*.      5 ST inserts here #-.      6 SD, ST om.  
 7 SB: *pa'i*.      8 SB om. *nyid kyi*.      9 SB: *bar rnams yod do //*  
 10 ST: *thar*.      11 SD: *pa bsten pa* for *pa'i don*; ST: *don bstan pa*.  
 12 ST: *tshe dang ldan pa shā ra* (ST. 11) *dwa ti'i bu gzugs*.      13 SB: *pas*; ST: *pa dang*.  
 14 ST. om.      15 SB: *pa*.      16 SB: *pas*; ST: *pa dang*.      17 ST. om.  
 18 SB: *pa*.      19 SB: *pas*; ST: *pa dang*.      20 ST. om.      21 SB: *pa*.  
 22 SB: *pas*; ST: *pa dang*.      23 ST. om.      24 SB: *pa*.      25 SB: *pas*; ST: *pa dang*.  
 26 ST. om.      27 SB: *pa*.      28 SB: *pas*; ST: *pa dang*.      29 ST. om.      30 SB: *pa*.  
 31 SB: *pas*; ST: *pa dang*.      32 ST. om.      33 SB: *pa*.      34 SB: *pas*; ST: *pa dang*.  
 35 ST. om.      36 SB: *pa*.      37 SB: *pas*; ST: *pa dang*.      38 ST. om.      39 SB: *pa*.

lus nam par dag pa<sup>1</sup> / <sup>2</sup>lus nam par dag pas<sup>2,3</sup> / yid nam par dag pa<sup>4</sup> /  
<sup>5</sup>yid nam par (SD. 12a) dag pas<sup>6</sup> / nam pa thams cad mkhyen pa nyid kyi  
 bar<sup>7</sup> nam par dag pa ste<sup>8</sup> / de ltar na<sup>9</sup> yid nam par dag pa dang / nam pa  
 thams (SK. 11a) cad mkhyen pa nyid kyi bar nam par dag pa 'di la gnyis su  
 med de gnyis su byar med so so ma yin tha mi dad do<sup>5</sup> //

gzugs<sup>10</sup> yongs su dag pa<sup>11</sup> / (SD. 12b) gzugs yongs su dag pas<sup>12</sup> tshor ba<sup>13</sup>  
 yongs su<sup>14</sup> dag pa<sup>15</sup> / tshor ba<sup>16</sup> yongs su dag pas<sup>17</sup> 'du shes<sup>18</sup> yongs su dag pa<sup>19</sup> /  
 'du shes<sup>20</sup> yongs su dag pas<sup>21</sup> / 'du byed<sup>22</sup> (SK. 11b) yongs su dag pa<sup>23</sup> / 'du  
 byed<sup>24</sup> yongs su dag pas<sup>25</sup> / nam par shes pa<sup>26</sup> yongs su dag pa<sup>27</sup> / nam par  
 shes pa<sup>28</sup> yongs su dag pas<sup>29</sup> / mig<sup>30</sup> yongs (SD. 13a) su dag pa<sup>31</sup> / mig<sup>32</sup> yongs  
 su dag pas<sup>33</sup> / rna ba<sup>34</sup> yongs su dag pa<sup>35</sup> / <sup>36</sup>rna ba yongs su dag pas<sup>37</sup> / sna  
 yongs su dag pa<sup>38</sup> / sna yongs su dag pas<sup>39</sup> / lce yongs su dag pa<sup>40</sup> / lce yongs  
 su dag pas<sup>41</sup> / lus yongs su dag (SK. 12a) pa<sup>42</sup> / lus yongs su dag pas<sup>43</sup> / yid  
 yongs su dag pa<sup>44</sup> / yid (SD. 13b) yongs su dag pas<sup>45</sup> / nam pa thams cad

---

1 SB: pas; ST: pa dang.

2 ST. om.

3 SB: pa.

4 SB: pas; ST: pa dang.

5 ST om.

6 SB: pa nam par shes pa nam par dag pas / nam par shes pa nam par dag pa.

7 SB: bar nam.

8 SB: te.

9 SD om.

10 ST: rab 'byor gzhan yang gzugs.

11 SB: pas.

12 SB: pa.

13 ST: sgra for tshor ba.

14 SB: yongsu.

15 SB: pas.

16 ST: sgra for tshor ba.

17 SB: pa.

18 ST: dri for 'du shes.

19 SB: pas.

20 ST: dri for 'du shes.

21 SB: pa.

22 ST: ro for 'du byed.

23 SB: pas.

24 ST: ro for 'du byed.

25 SB: pa.

26 ST: reg for nam par shes pa.

27 SB: pas.

28 ST: reg for nam par shes pa.

29 SB: pa.

30 ST: chos for mig.

31 SB: pas.

32 ST: chos for mig.

33 SB: pa.

34 ST: mig gi nam par shes pa for rna ba.

35 SB: pas; ST: nam par dag pa nas / yid kyi nam par (ST. 12) shes pa yongs su nam par  
 dga pa'o for dag pas.

36 ST. om up to ##,

37 SB pa.

38 SB pas.

39 SB pa.

40 SB pas.

41 SB pa.

42 SB pas.

43 SB pa.

44 SB pas.

45 SB: pa.

mkhyen pa nyid kyi bar (SB. 4b) yongs su dag pa <sup>1</sup>ste / de ltar na<sup>2</sup> yid yongs su dag pa dang / rnam pa thams cad mkhyen pa nyid kyi bar yongs su dag pa<sup>1</sup> 'di la <sup>3</sup>gnyis su med de<sup>3</sup> gnyis su byar med so so ma yin tha mi (SK. 12b) dad do //

'di lta ste' / "sbyin pa'i pha rol tu phyin pa dang / tshul (SD. 14a) khrims kyi pha rol tu phyin pa dang / bzod pa'i pha rol tu phyin pa dang / brtson 'grus kyi pha rol tu phyin pa dang / bsam gtan gyi pha rol tu phyin pa dang / shes rab kyi pha rol tu phyin pa dang / nang stong pa nyid dang / phyi stong pa nyid dang / phyi nang stong pa nyid dang / stong pa nyid stong (SD. 14b) pa nyid (SK. 13a) dang / chen po stong pa nyid dang / don dam pa stong pa nyid dang / 'dus byas stong pa nyid dang / 'dus ma byas stong pa nyid dang / mtha' las 'das pa stong pa nyid dang / thog ma dang tha<sup>4</sup> ma med pa stong pa nyid dang<sup>5</sup> / dor ba med pa stong pa nyid dang / rang bzhin stong pa nyid dang / chos thams cad stong (SD. 15a) pa nyid dang / (SK. 13b) <sup>6</sup>rang gi mtshan nyid stong pa nyid dang<sup>6</sup> / mi dmigs pa stong pa nyid dang / dngos po med pa stong pa nyid dang / ngo (ST. 10) bo nyid stong pa nyid dang / dngos po med pa'i ngo bo nyid stong pa nyid dang / dran pa nye bar bzhag<sup>7</sup> pa bzhi dang / yang dag par spong ba bzhi dang / rdzu 'phrul gyi rkang pa (SD. 15b) bzhi dang / dbang po lnga dang / stobs lnga dang / byang chub kyi yan lag bdun dang / 'phags (SK. 14a) pa'i lam (SB. 5a) yan lag brgyad pa<sup>8</sup> dang / 'phags pa'i bden pa bzhi dang / bsam gtan bzhi dang / tshad med pa bzhi dang / gzugs med pa'i snyoms<sup>9</sup> par 'jug pa bzhi dang / rnam par thar pa brgyad dang / (SD. 16a) mthar gyis<sup>10</sup> gnas pa'i snyoms<sup>11</sup> par 'jug pa dgu dang / rnam par thar<sup>12</sup> pa'i sgo stong pa nyid dang / (SK. 14b) mtshan ma med pa

1 SB om.

2 SD om.

3 SD om.

4 SB: *mtha'*.5 SB: *dang rang gi mtshan nyid stong pa nyid dang.*

6 SB om.

7 SK: *gzhag.*

8 SB, ST om.

9 SB: *snyom.*10 SB: *gyi.*11 SB: *snyom.*12 SB: *mthar.*

dang /smon pa med pa dang / mngon par shes pa rnam<sup>1</sup> dang / ting nge 'dzin rnam dang / gzungs kyi sgo rnam dang / de bzhin gshegs pa'i stobs bcu (SD. 16b) dang" / mi 'jigs<sup>2</sup> pa bzhi dang / so so yang dag par rig pa bzhi dang / byams<sup>3</sup> pa chen po dang / snying rje chen po dang / dga' ba chen po dang / btang snyoms chen po dang / (SK. 15a) sangs rgyas kyi chos ma 'dres pa bco<sup>4</sup> brgyad dang / rgyun du<sup>5</sup> zhugs<sup>6</sup> pa'i 'bras bu dang / lan cig<sup>7</sup> phyir 'ong ba'i 'bras bu<sup>8</sup> dang / phyir (SD. 17a) mi 'ong ba'i 'bras bu<sup>9</sup> dang / dgra bcom pa nyid dang / rang byang chub dang / <sup>10</sup>thams cad shes pa nyid dang<sup>10</sup> / lam gyi nam pa<sup>11</sup> shes pa nyid dang / nam pa thams cad mkhyen (SK. 15b) pa nyid dang / <sup>12</sup>sku'i 'phrin<sup>13</sup> las thams cad ye shes kyi sngon du 'gro ste<sup>14</sup> / ye shes kyi rjes su 'brang ngo // gsung gi 'phrin las thams cad ye shes kyi sngon du 'gro (SD. 17b) ste<sup>15</sup> / ye shes kyi rjes (SB. 5b) su 'brang ngo // thugs kyi 'phrin las thams cad ye shes kyi sngon du 'gro ste<sup>16</sup> / ye shes kyi rjes su 'brang ngo<sup>12</sup> // 'das pa'i dus la<sup>17</sup> ma chags ma thogs<sup>18</sup> (SK. 16a) pa'i ye shes gzigs pa la<sup>19</sup> 'jug go / <sup>20</sup>ma 'ong pa'i dus la<sup>21</sup> ma chags ma thogs pa'i ye shes gzigs pa la<sup>22</sup> 'jug go / da ltar byung ba'i (SD. 18a) dus la<sup>23</sup> ma chags ma thogs pa'i ye shes gzigs pa la<sup>24</sup> 'jug go<sup>20</sup> /

bcom ldan 'das kyi<sup>25</sup> de skad ces bka' stsal nas<sup>26</sup> / byang chub sems dpa' sems dpa' (SK. 16b) chen po'i 'khor<sup>27</sup> de dag dang / rab 'byor dang / kun dga' bo dang / tshe dang ldan pa rnam dang / dge slong<sup>28</sup> gi dge 'dun (ST. 13)

---

1 ST: *Inga*.      2 ST: 'jiḍ.      3 SB: *byam*.      4 SB: *bcwo*.      5 SB: *tu*.  
6 SB: *bzhugs*.      7 SB: *gcig*.      8 SB om. 'i 'bras bu.      9 SB om. 'i 'bras bu.  
10 SD, ST om.      11 SB, ST: *par*.      12 ST om.      13 SD: *phrin*.      14 SB: *zhing*.  
15 SB: *zhing*.      16 SB: *zhing*.      17 ST: *na*.      18 ST: *ma thogs ma chags*.  
19 SB om; T: *par*.      20 ST om.      21 SB: *na*.      22 SK om.      23 SB: *na*.  
24 SK om.      25 B: *kyi*.      26 B: *pa dang*.      27 BK om. 'i 'khor.  
28 T: *de dag gi dge slong*.

chen (SD. 18b) po mams<sup>1</sup> dang / lha dang / mi dang / lha ma yin dang / dri  
zar<sup>2</sup> bcas pa'i 'jig rten yi rangs<sup>3</sup> te / bcom ldan 'das kyis gsungs pa la mngon  
par bstod do //

<sup>4</sup>de bzhin gshegs pa (SK. 17a) thams cad kyi<sup>4</sup> yum chen mo<sup>5</sup> shes rab kyi  
pha rol tu phyin pa stong phrag brgya pa'i don ma nor bar bsdus <sup>6</sup>pa <sup>7</sup>sla<sup>8</sup> kar  
bkod pa<sup>6</sup> rdzogs so<sup>7</sup> //

<sup>9</sup>jo bo rjes bal po a su la gnang / bal pos sho lo<sup>10</sup> kar bkod pa rdzogs  
so<sup>9, 11</sup> //

---

1 SB: *de dag*; T. om. *chen po mams*.

2 ST: *za dang / grul bum dang / lto 'phye chen por*. 3 SB: *yid rang*. 4 SD om.

5 SB om. *chen mo*.

6 T: pa'i glegs bam dang shlo ka dang / bam po dang / shlau ka bkod pa 'di bris na / yum  
chen mo bris par 'gyur ro // 'chang na yum chen mo 'chang bar 'gyur ro // sngon rgan rgon  
rgyu med pa gnyis yod par 'dug pa la / khang gnya' na grub thob bzang po gcig bzhugs pa  
des / khang zhabs su 'dug pa'i rgan rgon gnyis gnangs nyin pas mi tshe mi snang ba snying  
re rje / 'bum brgya tshar gcig dang / chu gtor 'bum gter gcig byas na tshe ring bar 'dug  
gsung 'phrin rgan rgon gnyis po des tshor ba dang / sdug nas nam 'chi bsam nas yod dus  
na / bstan pa'i bdag po sangs rgyas bcom ldan 'das byon nas ldom bu phul byas tsa na /  
rgan rgon gnyis pos ldom bu 'bul rgyu med nged rang gnyis gnangs nyin pas tshe med 'chi  
ba yin zer / tshe ring ba la 'bum brgya tshar gcig dang / chu gtor gcig dgos zer ba la rgyu  
med pas / khong rang la ldom bu 'bul rgyu med zhus tsa na / snying re rje gsungs nas /  
'bum bris pa dang / mchod gnas la 'bum brgya tshar byed chug gsungs / rtsam pa e yod  
gsungs nas chu gtor 'bum gter khong rang gis mdzad pa dang / rgan rgon gnyis po tshe  
ring ba dang / nad med pa dang / rgyu yod pa rnam chos des yod gsungs so // yum chen  
mo 'bum chung stong phrag brgya pa'i phan yon.

7 SB om. 8 SD: *shlau*.

9 ST inserts after the next paragraph; SD ends the text here. 10 ST: *shlo*.

11 SK: *pa'o* for *pa rdzogs so*.

'di ni<sup>1</sup> bcom ldan 'das bzhugs<sup>2</sup> pa'i dus su / rgyal po 'bim<sup>3</sup> bi<sup>4</sup> sa (SK. 17b)  
 ra dang / btsun mo ma ga<sup>5</sup> ti gnyis la<sup>6</sup> sras bu<sup>7</sup> dge chen bya ba 'gcig<sup>9</sup> yod pa  
 de<sup>9</sup> bar chad nad<sup>10</sup> kyis<sup>11</sup> zin nas 'chi<sup>12</sup> la thug pa<sup>13</sup> (SB. 6a) dus su / bcom<sup>14</sup>  
 ldan 'das kyi drung du rgyal pos<sup>15</sup> smre sngags bton te / 'di skad ces<sup>17</sup> zhus  
 so<sup>16, 18</sup> // bcom<sup>19</sup> ldan 'das<sup>20</sup> bdag gi<sup>21</sup> bu gcig<sup>22</sup> mchis nas<sup>23</sup> 'chi<sup>24</sup> la thug na<sup>25</sup> nad  
 las grol<sup>26</sup> ba'i thabs shig<sup>27</sup> bka' stsal du gsol / zhes (SK. 18a) zhus pas / bcom  
 ldan 'das kyi zhal nas rgyal po yar dkon mchog la mchod pa dang / rigs drug  
 tshim<sup>28</sup> pa'i chab gtor dang / rgyas pa 'bum nyin gcig la brgya tshar<sup>29</sup> bton na /  
 dus min 'chi ba las bzlog<sup>30</sup> cing nad las grol bar<sup>31</sup> 'gyur ro // zhes gsungs pas /  
 rgyal pos gsol pa / (SK. 18b) bcom ldan 'das rgyas (ST. 16) pa<sup>32</sup> 'bum nyin  
 gcig la brgya tshar<sup>33</sup> thon pa'i thabs gcig<sup>34</sup> bka' stsal du gsol / zhes zhus pas<sup>35</sup> /  
 bcom ldan 'das kyis<sup>36</sup> 'bum chung 'di bka' stsal pa dang / rgyal pos<sup>37</sup> 'bum chung  
 'di myur bar<sup>38</sup> bsgrags so // de nas<sup>39</sup> rgyal bu nad las grol<sup>40</sup> nas tshe ring zhing<sup>41</sup>

- 
- 1 ST: *yang 'gyur gcig na* for 'di ni.      2 SB: *zhal bzhugs*.      3 SB, ST om.  
 4 ST: *bi mā*.      5 SK: *ka*.      6 SB: 'a; SK: *kyi*.      7 SK: *rgyal po*.  
 8 SK om.      9 ST: *cig*.      10 SB, ST om.      11 SB: *kyi*.      12 SK: 'chi ba.  
 13 ST: *gi*.      14 ST: *rgyal pos bcom*.      15 ST: *myur bar byon nas* for *rgyal pos*.  
 16 ST om.      17 SK om.      18 SK: *pa*.      19 SK: *bcom*.      20 ST: 'das la zhus pa.  
 21 SK, ST: *la*.      22 SK: *bu gcig pu zhig*; ST: *bu gcig pu gcig*.  
 23 SK: *pa'i da*; ST: *pa de bar chad kyis zin*.      24 SK: 'chi ba.      25 SB: *pas*; SK: *pa lags*.  
 26 ST: *de mi 'chi* for *nad las grol*.      27 SB: *cig*.      28 ST: *tshims*.  
 29 SK: *brgya rtsa gcig nyi ma gcig la* for *nyin gcig la brgya tshar*.  
     ST: *brgya tshar nyin gcig la*.  
 30 SB: *ldog*; ST: *zlog*.      31 SB: *thar par*.      32 SK: *pa*.  
 33 SK: *brgya rtsa gcig nyi ma gcig la* for *nyin gcig la brgya tshar*.  
     ST: *brgya tshar nyin gcig la*.  
 34 ST, SK om. *gcig*.      35 ST: *pa dang*.      36 SB; *kyi*.      37 SK: *pos myur bar*.  
 38 SK om. *myur bar*.      39 SB, ST om. *de nas*.      40 SB: *thar*.  
 41 ST om. *tshe ring zhing*.

longs spyod phun sum tshogs pa<sup>1</sup> dang / rgyal khams bde (SK. 19a) zhing lo<sup>2</sup>  
 legs pa dang<sup>3</sup> / 'rigs drugs so so'i sdug bsngal mtha' dag zhi<sup>5</sup> zhing tshe ring pa  
 dang / phyi ma sangs rgyas thob par gyur to<sup>6</sup> // gzhan (SB. 6b) yang 'bum  
 chung 'di lan gcig bton na / mtshams med<sup>7</sup> lnga la sogs pa'i sdig pa thams cad  
 byang zhing<sup>8</sup> / bsod nams phun sum tshogs pa<sup>9</sup> thob par 'gyur ro<sup>4</sup> //

jo bo rje dpal ldan a ti (SK. 19b) shas lo bcu gnyis kyi bar<sup>10</sup> du gsung rab  
 rnam la<sup>11</sup> gzigs pas / 'bum chung 'di kho na phan yon che<sup>12</sup> bar 'dug pas /  
 'thugs dam mdzad<sup>13</sup> phyi rabs kyi<sup>14</sup> gang zag rnam kyi<sup>15</sup> kyang 'di la klog  
 'don byed pa shin tu<sup>16</sup> gal che bar<sup>17</sup> gsungs so // //

<sup>18</sup>'bum chen mo shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i snyin po bsdus pa'i 'bum  
 chung rdzogs so // bkra shis // zhus dag lan gnyis byas //<sup>18</sup>

---

1 ST: *che zhing tshe ring ba for phun sum tshogs pa.*

2 ST: *lo phyugs.*

3 ST: *dang rgyal srid dar bar gyur to .*

4 ST: *gzhan yang phan yon mtha' yas so // jo bo rjes bal po a su la gnang / bal pos shlo  
 kar bkod pa rdzogs so //*

5 SB: *las thar.*

6 SB: *'gyur ro.*

7 SB: *mtshom med pa.*

8 SB: *zhing dag nas.*

9 SK: *'bum for phun sum tshogs pa.*

10 SB: *zad.*

11 SK, ST om.

12 ST: *shin tu che.*

13 SB, ST om.

14 SB, ST: *kyi.*

15 SB: *kyi.*

16 SK, ST om. *shin tu.*

17 SK: *zhes; T. om.*

18 SK, ST om.